



自然遊学館 だより

2018 SPRING

No.87



貝塚市名越での観察会で植物の解説をする上久保先生
2003年1月6日

2018.5.10 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

***ネイチャーレポート**

上久保先生の植物腊葉標本

.....植物標本整理ボランティア...1

脇浜淡水真珠養殖について 西出康介...2

***行事レポート**

春の七草摘みハイキング 湯浅幸子... 3

西鳥取漁港でノリスき体験 山田浩二... 4

打ち上げ貝拾い 澤田智子... 5

千石荘&近木川河口バードウォッチング

..... 鈴子勝也 ... 6

***泉州生きもの情報**

オシドリ確認 鈴子勝也...8

発見!! 希少鳥ツクシガモ!!! 山口隼平...9

***館長コーナー**

近木川にアユを! 高橋寛幸... 10

***いきものがかり**

遊学館で飼育している生きもの14
..... 鈴子勝也... 12

***特別展報告**

2017年の自然遊学館の出来事 岩崎拓... 13

***調査速報**

和泉葛城山昆虫調査 2017 岩崎拓... 15

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査8
..... 鈴子勝也... 17

***寄贈標本** 19

***スタッフ日誌** 22



ネイチャーリポート

上久保先生の植物^{さくよう}腊葉標本

1995年に自然遊学館の館長に就任され、2001年に退任された後も長く自然遊学館に関わってこられた上久保文貴先生が亡くなられて本年6月で丸3年となります。

先生はご自身で採取された植物標本を生前に自然遊学館に寄贈されていました。このたび、その標本の整理が終わりました。とは言えまだやっと採集年月日順に通し番号をつけ、ラベルの表記や標本をはさんである新聞紙に書かれているメモ書きをもとにリストを作り上げたところです。

標本は未同定のものや記載に不備のあるものもありました。本来ならばこの標本整理は先生がご自身でされ、より完璧なものにされたかったのではなかったかと思えます。しかし体調を崩されやむなく自然遊学館にその作業を託されました。その思いに応えることができたかどうか、はなはだ頼りない部分もありますが、なんとかかたちにできたと思っています。

標本の総数は6,700点余りで、種数としては約1,900種を数えます。標本の状態としては、初期のものはていねいに台紙に貼られているものがほとんどできちんとラベルも貼られています。しかし教員としてのお仕事が忙しくなってきたのか、ほどなくほとんどが新聞紙にはさんだままとなっています(図1)。植物体の状態は良好なものが大半ですが中には?となるものもあるのはご愛敬でしょうか。



図1. 新聞紙にはさまれた腊葉標本

(トキリマメ 2013. 9. 23 岬町上孝子)

採集時期としては、一番古い標本は今から55年前の1963年伊吹山のもので、最後は亡くなる前年の2014年10月男里川のものでした。それ以降も病をおしてフィールドには出られていたようですが標本は残っていません。

採集地点数は確認していませんが採集範囲としては北海道と、東京都以西～広島県、南は高知県に及んでいます。が、やはり近畿地方のもの、特に大阪府南部のものがたくさんありました。なかでも地元である阪南市、それもご自宅近くの里海公園を中心とした場所の標本が多く、地元で根ざした活動をしておられたことをうかがい知ることができます。また日付を見ますと、今日はこの山、明日はあの谷という感じで日を置かずにあっちへこっちへと飛び回る様子がみられました。柔道で鍛えられた体がこの行動力を支えたのでしょうか。

標本の内容ですが、上久保先生といえど何と言ってもハマデラソウが挙げられるでしょう。ハマデラソウは1932年に牧野富太郎により堺市浜寺で発見・命名されたヒユ科の北米原産の帰化植物ですが、その

後の開発により絶滅したと思われていました。しかしその後泉大津市の助松墓地で生育が再確認されました。その再確認に上久保先生が深く関わっておられました。今回確認した標本の中にもハマデラソウの標本は3点ありました。一番古いものは1967年のものでした。場所はいずれも泉大津市の助松墓地です。先生もハマデラソウには思い入れがおありだったようで、奥様のお話ですと自動車などで助松墓地の近くを通ると「ここで見つけたんや。」と晩年まで話しておられたそうです。現在ハマデラソウは堺市の名前に「浜寺」と付く小中学校や植物園などで栽培されているものがほとんどですが、2004年には貝塚市で野生のものが発見されています。（自然遊学館だより No. 35, 2005）

それ以外の貴重な植物を環境省のレッドデータブックに記載されているカテゴリをもとに見ますと、絶滅や野生絶滅のものはありませんでした。絶滅危惧ⅠA類は4種7点、ⅠB類は8種22点、Ⅱ類は33種102点、準絶滅危惧は33種126点がそれぞれ確認されました。

標本採取の傾向としては、初期の頃は言い方は悪いですが「手当たり次第」という感じです。しかし、だんだんその地点の特徴的なものを採取されるようになってきます。ですから1地点あたりの採集数は少なくなります。また中盤以降、気になった植物をかため取りをすることが時々見られるようになります。比較検討するための材料とされたのではないかと思います。

以上、上久保先生の植物標本の概要を報告いたしました。一応リストは完成いたし

ましたが、まだまだ不備な部分もあります。その部分をしっかり補い、より完璧なものにして公開できることを目指したいと思います。



（植物標本整理ボランティア）

脇浜淡水真珠養殖について

貝塚市脇浜で昔行われていたという真珠養殖試験について、近所（脇浜）のおじいちゃんより聞いた話を記します。

真珠養殖試験を始めた時期は、海苔養殖よりも先の様です。挑戦した場所は、貝塚市役所近くの池で、貝の種類はイケチョウガイで行いました。

母貝にカミソリ等で切れ目を入れ、専用の道具（図1）で核のようなものを入れたそうです。養殖をするにあたり、専門家も来たそうです。

真珠は何個も出来ていて、脇浜漁業組合の二階で研磨や選別もしたそうです。

しかし、煮干しや地曳網など、浜の仕事

が忙しくなり、見に行けない間に一晩でござり盗まれてしまい、あえなく辞めざるを得なくなったそうです。



図 1. 真珠養殖に使う道具

(貝塚市立第五中学校 3 年生 西出康介)

行事レポート

春の七草摘みハイキング

日時：2018 年 1 月 6 日 (土) 10:00~11:30

場所：貝塚市蕎原

参加者：25 人 (うちスタッフ 3 人)

例年年明け一番の行事ですが、寒さが気になります。ほの字の里のグラウンドに集合する頃は小雨が降っていました。前もって用意した七草のうちの 5 種、セリ、ナズナ、ハハコグサ、ハコベ、コオニタビラコを並べて、事前説明をしながら、参加者の方に実物の植物を見て頂きました。今年は、七草のカラー写真をレジュメに記載したので、わかりやすいと好評でした。

七草の歌にあるゴギョウはハハコグサ、ホトケノザはコオニタビラコ、スズナはカブ、スズシロはダイコンの事、また、七草

と間違いやすい似た植物もある事、七草がゆを作る際の「はやしうた」の話もしました。

説明の後田畑に向かう頃には雨はやみ、風もないのであまり寒くありませんでした。まず、ほの字の坂を下りた所にある府中病院空地で七草を探しました。手入れされなくなって数年、植生が変わりセイタカアワダチソウのロゼットが目立ちました。元田んぼには、コオニタビラコは見つからず、主にセリ、ハコベを摘むことができました。

次に、例年お世話になっている斉喜さんの田畑に向かいました。ハコベは途中の道路脇あちこちに生えていました。斉喜さんの田畑への坂道を下り、まず左手の空地でナズナを探しました。他にタネツケバナ、スカシタゴボウなども混生しているので、ロゼットだけでの見分けは難しい。花が咲いているナズナを探して、それぞれの花や実の形の違いなどを見てもらい、ナズナの葉を摘みました (図 1)。



図 1. ナズナを探す

その後右側のほうに移動。田んぼの縁側で今年もコオニタビラコのロゼットが並

んでいました。コオニタビラコの周辺には主にイネ科植物があるだけだったので、確認しやすかったようです。さらに畦道のほうに進むと、ハハコグサが3株ほど見つかりました。さらにハハコグサを探して一列になって進むと、ぱらぱらとハハコグサが生えていました。セイタカハハコグサかチコグサモドキ？という紛らわしい株もありました。畔には他にスカシタゴボウ、ナズナなどがありました。

例年楽しみにしている近くの石垣のフユイチゴの実は、今年は全然ありませんでした。ほの字の里にもどり、遊学館で育てたダイコンとカブを参加者に配って解散しました。

(湯浅 幸子)

西鳥取漁港でノリすき体験

日時：2018年1月28日(日) 9:00~16:00

場所：阪南市西鳥取漁港、名倉水産

参加者：29人

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

今年度最後となる貸し切りバス利用での行事は、阪南市の西鳥取漁港を訪れて、ノリ（海苔）すき体験を行いました。大阪で現在ノリ養殖が行われているのは、阪南市の3軒のみで、今回その中の1つ、西鳥取の名倉水産にお世話になりました。ちなみに貝塚市もノリ養殖とは縁があり、大阪で初めて1960年代にノリ養殖に乗り出したのは、かつてあった脇浜漁協でした。

当日は市役所から現地までのバスの中

で海藻にお詳しい泉鳥取高校の河添先生から、海藻であるノリの生活史等についてお話して頂きました(図1)。



図1. 行きのバス内でノリ（海藻）の学習

現地に着くと、名倉さんから自己紹介の後、海から採ってきたノリを板ノりにする工程の説明を聞きました。さっそく、参加者のノリすき体験です。生ノリを攪拌して細かく砕き、水と混ぜ合わせた溶液を型に流し込みながら成型します(図2)。一般的な四角の型だけでなく、星形やハート形など楽しい型も用意されていました。最後にギュッと上から押して水分を取った後、出来上がったノリを木枠に干しました(図3)。



図2. ノリすき体験



図3. 参加者の作ったノリを干す



図5. 海につながる山の話

昼食時には名倉さんのご厚意で板ノリの試食のほか、生ノリの入った味噌汁と、ノリの天ぷらをおいしく頂きました。午後からは室内で食教育についてのお話を聞きました。まずは、名倉さん夫妻による海苔についての紙芝居をノリノリでやってもらいました(図4)。続いて、大阪湾と川を通してつながる山との関係について、大阪みどりのトラスト協会に勤めていた経歴を持つ天満さんから、身近な話題を交えてお話し頂きました(図5)。

(山田 浩二)

一日を通して大阪湾で育つ海藻、ノリについて学び、食卓で普段、何気に食べていたノリのイメージが一新された行事でした。

打ち上げ貝拾い

日時：2018年2月10日(土)13:00~15:30

場所：自然遊学館2階

参加者：31人

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

毎年50人を超える人気行事ですが、今年はいにくの雨という空模様のため、浜辺で貝拾いをする事ができませんでした。

前日と当日の午前中に当館スタッフが二色の浜海水浴場で打ち上げられている貝を拾い、当日は参加者のみなさんに当館内で紙皿に貝を貼って名前を調べるといふ工作のみを行って頂きました。浜辺で貝拾いをできなかったのは残念でしたが、その分、貝の専門家の児嶋先生と大古場先生が貝の魅力を余すことなく説明してくださいました(図1)。



図4. 名倉さん夫妻のノリノリ紙芝居



図1. 二色の浜の貝についての解説

先生方の口からあふれるように出てくる貝の名前はとても不思議な響きがあります。ネコガイ、サルボウ、イシダタミ、コベルトカニモリ、キヌボラ、チリボタン、ホトトギスガイ、キクザル……。貝の名前だと知らなければ「鳥?」「サル?」と勘違いしてしまいそうです。

参加者のみなさんが工作をしている間、スタッフは机の上に貝の名前を印刷した札を並べ、参加者が紙皿に貼った貝の名前の札を探しにくるのに備えます。毎年の貝拾い行事で記録されている延べ100種類以上の札を用意しているにも関わらず、今年は札がない名前の貝がたくさんありました。(例年は近木川河口で貝を拾っていますので、過去の本行事で記録した貝リストとのデータ比較はできません)

「アダムスタマガイ、アダムスタマガイ、アダム……。ア……。ア……。」先生から教わった貝の名前を忘れる前に札を探そうと、貝の名前を呪文のように唱えている子供たちが机の周辺に集まり、札を見つけて紙皿に貼っていきました。みなさんの紙皿工作はとても個性的で、見ているだけでも楽しい作品が出来上がっていました。



(澤田 智子)

千石荘 & 近木川河口 バードウォッチング

日時: 2018年2月17日(土) 10:00~15:00

場所: 千石荘 (10:00~12:00)

近木川河口 (13:30~15:00)

参加者: 33人

毎年、2月中旬頃にバードウォッチング千石荘と近木川河口で行事を行います。講師は、和田太一さん(NPO 法人南港ウェットランドグループ)と食野俊男さんが担当してくれました。冬の時期になると冬鳥と呼ばれる野鳥が多く飛来し、樹木には、葉がほとんどなく見やすくなっています。午前

から千石荘、午後から近木川河口で野鳥観察を行いました。



千石荘の野鳥観察

千石荘の横にある、下原池から野鳥観察を開始しました。下原池は、ゴイサギやアオサギなどのサギ科が4種類見ることができました。ゴイサギは、成鳥と幼鳥を確認することができました。千石荘ロータリーから千石荘養護学校跡地に向かう道には、野鳥の姿がほとんどなく、車や人が多く通るようになったので、野鳥を見るのが少なくなったのかも知れません。それでも木を突くコゲラや地面にジョウビタキを見ることができました。これまでは、養護学校跡地の正面の方を歩いていたのですが車が通る量が多いこともあり、裏側を歩いて、行くことにしました。裏側に回るとカワウが飛び回り、その近くにはエナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロなどの混群や地面にはアオジの姿をみることができました。カンコ池に向かうとカイツブリやバン、池の対岸にはカワセミも見ることができました。ポタン池に抜ける道にはほとんど野鳥の姿がなく、農地を通ると上空にノスリとミサゴを観察することが出来

ました、他にもカワラヒワやケリなどもいました。ノスリは、上空にいたのですが木に降り立ったので、和田太一さんがフィールドスコープを使ってじっくりと観察することができました。千石荘ロータリー近くに付くとシロハラの鳴き声を聞くことができました。千石荘では32種を確認しました。

午後からの近木川河口付近では、水鳥が多く観察することが出来ました。自然遊学館から汽水ワンドに向かう道にモズやイソヒヨドリをみることができました。子どもたちも双眼鏡を使い頑張って、観察をしていました。汽水ワンドの方に向かうとカルガモ、コガモ、ハシビロガモなどのカモの仲間やケリ、イカルチドリのチドリの仲間が近くにいたので、フィールドスコープを使い、子どもたちに見てもらおうと凄く喜んでいました。



コガモ (上:オス 下:メス)

臨海線の上から近木川上流方向には、アオサギとダイサギを確認することができました。近木川河口付近のヨシ原の中にオオジュリンの姿を確認でき、セグロカモメが河川の真ん中に降り立ちましたがすぐ

に飛んでいってしまいました。近木川河口の方に行くと風が強く、去年より水鳥の羽数は、少なかったのですが、オカヨシガモやホシハジロなどのカモの仲間やシロチドリ、ハマシギのシギ、チドリの仲間が見られました。



ホシハジロ (メス)

近木川河口では野鳥 29 種を確認することができました。去年より、種数は少なかったのですが午前も午後も風が非常に強く、野鳥の種数が少なくなったのかも知れません。今年、行事の中で初めて千石荘ではチョウゲンボウ、近木川河口ではオカヨシガモ、ハシビロガモ、イカルチドリが確認できました。

(鈴子 勝也)

泉州生きもの情報

オシドリ確認

1月6日にたまたま、ため池の水鳥調査を行ったときに、オシドリを確認することができました。丘陵地の三ツ松にある池にいました。最初、確認したとき雌

で、マガモの群れに紛れ込んでいたので、違う種類だと気付かなかったのですが、帰ってから、写真で見るとオシドリの雌だということが分かりました、自然遊学館では、貝塚市でのオシドリの記録がなく 193 種目になりました。他の人に聞いてみると以前から貝塚市で、オシドリを確認されていることが分かりました。他にも山の麓近く水間の池でオシドリが雄 4 羽雌 3 羽を確認することができました。



オシドリが確認できたため池

冬の間のため池に来る水鳥を調査が疎かになっていたので、ふと思い立って行った結果、いきなりオシドリに出会うことができました。今後、調査を怠らないように精進していこうと思いました。

オシドリは、留鳥または冬鳥として、全国的に生息し、北海道、東北などでは夏鳥で、山間の溪流、湖沼などの近くの木の洞で繁殖します。冬になると周囲を木々に覆われた池、湖沼、河川に生息し、条件が揃っていたら、越冬します。おもに植物食で、ドングリを好んで食べ、水生の生物も食べます。



オシドリの雌雄

(貝塚市水間 2018年1月6日)

雄の成鳥は頭上から後頭に冠羽があり顔が白く、嘴が赤色、三列風切の内側に一對のイチョウの葉に似た羽が生えるのが特徴です。雌の成鳥は、嘴が黒色、脇の羽の淡色斑が丸斑のが特徴です。

(鈴子 勝也)

た一羽の若鳥のみでした。2017年の大阪府ガンカモ調査による大阪府内の記録をみても、調査地点461地点の内、泉大津埋立地、大阪北港町地区、堺市舟渡池の計3地点しかなく、ツクシガモが珍しい鳥であることが分かります。



ツクシガモ

(近木川河口 2018年1月27日)

発見!! 希少鳥ツクシガモ!!!

2018年1月27日、この日は展示用のトビイロシワアリを追加採集するため、二色浜へと向かいました。その道中、近木川河口に集まる鳥類を双眼鏡で確認していたら、「ツクシがいますね。」と声が上がりました。鳥類に疎い私は、今年度まだ来ない種なのかなと思っていましたが、どうやら環境省レッドリスト2014に絶滅危惧Ⅱ類と記載されているようでした。

自然遊学館に戻って近木川河口での記録をたどると、1996年から開始され現在に至る“大阪府ガンカモ調査”と、2002年2月より自然遊学館が行っている鳥類調査ともにツクシガモは確認されておらず、1999年1月27日に飯田政治さんが撮影し

ツクシガモは夏期、中央アジアやモンゴルで繁殖し、越冬のために日本に渡来する冬鳥です。特に九州有明海などで越冬し、西日本での越冬地はまばらなため、今回の発見は渡りの途中に休憩していただけかもしれません。

近木川河口で越冬してくれることを期待していたのですが、2月以降の調査では確認できませんでした。.....ちなみに、目当てのトビイロシワアリは採集できませんでした。寒くて地中に潜っていたのかもしれない。

(山口 隼平)

館長コーナー

近木川にアユを！

皆様お元気にお過ごしでしょうか？日々の朝晩の気温と昼の気温との差に、春から夏に移りゆく季節の移り変わりを感じていることでしょう。

昨日のニュースでは、日本では忘れ去られていた『はしか』が流行の兆しにあるとのこと、驚きを感じます。今後様々な場所で警戒を要することになりそうです。皆様も十分気を付けてお過ごしください。

さて、この春、自然遊学館では、新しい取り組みを始めました。それは、平成 30 年度から始まる近木川のアユ調査（ボランティアによる調査）です。

『近木川にアユを、近木川汽水ワンドにハクセンシオマネキを』のよびかけで4月にアユ調査ボランティアを募集しました。

そのきっかけとなったのは当館が数年前から行っている9月行事『近木川のアユを調べよう』に関係しています。

ここで、近木川のアユについて少しお話します。今から4年前の9月、近木川河口付近には百匹以上のアユが泳いでいるのが確認できました。その後、河口付近での観察会でアユの確認はできませんでした。

平成 29 年 6 月、近木川河口から数百メートル上流部（新井井堰）で多くのアユが確認され、その年の9月のアユ観察・調査では、アユが8匹確認できました。下の写真はその時採集されたアユの写真です。



近木川で採集されたアユ
(平成 29 年 9 月 24 日)

この時「6月にいたあれだけ目撃されていたアユはどこに？台風による大水で流されたのか？」という声と「アユの遡上を助ける魚道が設置できないだろうか？」

『近木川にア

ユを、汽水ワンドにハクセンシオマネキを！』をテーマにして活動できないだろうか？」という声がおこりました。近年、大阪府下でも各地でアユの遡上を助ける試みが行われ、新聞で紹介されたり、各地のイベントと共に実施されたりしています。

当館の観察・調査活動としてはすでに9月の行事として近木川のアユ調べや、年間を通じて汽水ワンド泥干潟のハクセンシオマネキなど水の生きものや植物・昆虫調査をしています。それとは別に、「アユの観察を単独のものとして行えないか？」

「近木川に簡易な魚道（土嚢を積むとか木枠を組むなど取り外しが可能なもの）をつくれませんか？」という思いから、単独の観察会を行うことを計画しました。

一方、「秋には多くのアユが近木川を泳ぐ光景を地域の人たちと共に見てみたい」「その第一歩として、近木川に簡易の魚道を作りたい」という願いを河川管理者に伝

えました。

観察会実施の第一歩として、昨年度末の『教育委員会だより』に以下のような記事を書きました。

近木川にアユを 自然遊学館 魚道づくりボランティア募集！

アユの遡上を助ける魚道造りを計画しています。アユが遡上し大きく育つ川にしませんか。

問い合わせは自然遊学館まで。

TEL. 072-431-8457



募集の中で紹介されたアユの写真

上の内容の記事を書き、「4月に第1回目活動を開始する」ということをめどにボランティアを募りました。おかげさまで、4人の募集と2人の協力者が集まりました。当館職員を入れれば9人の調査員が集まったことになりました。

しかし、いつまで待っても当面の目標、魚道づくりの回答がありません。何とか調査隊の体制を整えることが出来ましたが、肝心の施設づくりが出来ないこととなります。そして、回答が来ないまま、4月28

日、1回目の観察会が始まりました。



2018年4月28日 観察会の様子

以下に第1回目アユの観察会の記録を記します。

アユ観察会

2018年（平成30年）4月28日（土）

天気：快晴

観察場所 近木川河口から約 650m 上流
新井井堰付近

観察時刻 午後1時から2時

行程 自然遊学館集合 12時45分

→ 徒歩移動 → 脇浜潮騒橋

行程説明 → 近木川汽水ワンド横
通過 → 新井井堰着 1時10分

観察内容：1時15分 観察者それぞれがタモ
網にて川の各所で調査開始。

投網にて調査 結果 収穫なし

1時50分、現地発 → 市民の森着 記念撮影
後解散 観察会終了

参加された皆様からの声

- ・昔、ウナギを釣り、川で遊んだような川になってほしい
- ・川原を整備して、川にアユが戻るように

してほしい

- ・アマモを昔のように繁茂させると、魚が戻り、アユが遡上しやすくなるのでは
 - ・アユが遡上しやすい仕組みを作ってほしい（魚道など）
 - ・タモ網、胴長をそろえてほしい
 - ・投網をしたい
- 等々、貴重な声を聞くことが出来ました。

次回の観察調査活動の予定

- ・5月の連休でアユの遡上を目視で確認できたら召集（高橋より声掛け）
- ・召集日は土曜日が有力
- ・活動時刻は10時から（午後は日差しも強いため）
- ・活動内容はアユの確認と撮影、捕獲
- ・捕獲方法として投網（小さめの子ども用で体験してから本格的に取り組む）
- ・川に入り採集活動の時の胴長の準備
- ・活動場所は新井堰を中心以最上流部は河口から上流に900m地点（二色幼稚園付近）、最下流部は河口から上流に200m地点（近木川汽水ワンド付近）の全長約700mとする

追加調査として今後予定していること

- ・二色の浜のアマモ場調査
- ・近木川上流のホタル調査

今後もボランティアの皆様と力を合わせて近木川に多くのアユが泳ぐ日を夢見て観察を続けてまいります。ボランティア調査に興味のある方は是非当館までお知らせください。

（高橋 寛幸）

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの 14

いきものがかりも3年間書いてきましたが、飼育している生きものの紹介が一通り終わりました。皆様からの寄贈や採集してきた生きものが入りましたら、書こうと思います。今回は、トビイロシワアリというアリを紹介します。

トビイロシワアリは、北海道・本州・四国・対馬・九州・屋久島に生息し、草地や裸地、石下や土の中に営巣します。体長は2.5mmほどで、雑食性なので野外では、色んなものを食べています。自然遊学館で飼育しているときは、砂糖を与えています。



最初は、カナヘビのエサとして採集したのですが、カナヘビが全く食べなかったのですが、トビイロシワアリを飼育することにしました。普通に展示していたら、土の中に巣を作ってしまうので、アリの巣を見えるケースを作りました。今では、アリが巣を作っている様子を見ることができます。

（鈴子 勝也）

特別展報告

「2017年の自然遊学館の出来事」

1年間の出来事を振り返る特別展は、今年で7回目になります。昨年の2016年は1月にスナメリ漂着という大きなトピックがあり、2016年の出来事展ではスナメリの剥製がお披露目されたりして、思い出深い年になりました。それに比べると、2017年は双六風に作ったポスター（図1）を見ても、最初のニホンザルが以後を期待させるものの、それ以降はなんだか地味になりました。でも、以前もこんな感じでした。

ミュージアムサポートから助成を受けて事業を行ったので、その報告とアンケートの集計なども、コーナーを設けて展示しました。図2は展示会場の様子です。



図2. 展示会場の様子

特別展「2017年の自然遊学館の出来事」

～2017年の貝塚市の自然の記録と遊学館の行事を振り返ります～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室
期間：2017年3月1日(木)～4月8日(日)

貝塚市二色3丁目26-1 水鉄バス「市民の森」バス停下車徒歩1分
Tel. 072-431-8957 火曜日は休館日です。ご注意ください。

図1. 2017年展のポスター

行事の様子は、澤田智子さんに、館前に張り出している申込案内のポスターに、行事の結果を書き加えて作製してもらいました。2016年と2017年ともに、海の学び

生きものの記録に関して、29枚の写真を選びました。そのうち11枚は市民の方からの情報によるもので、別の4枚が観察会で採集されたもの、残りがスタッフの作品という内訳です。29種のほとんどは、これまで本誌において報告してきたものです。その中には、大阪湾初記録だったチャイロマルハタや、貝塚市初記録のセグロチョウチョウウオが含まれています(本誌85号)。2月のテナガダコと12月のダツも自然遊学館に記録がなかったものでした。

昆虫では、佐々木敏夫さんが5月に馬場で撮影したトラフトンボの卵塊を付けたメス成虫が「やや珍しいトンボの珍しい瞬間」でした。その他、自然遊学館に標本がなかった4月のドロハマキチョッキリや7月のオオトラフコガネ(いずれも和泉葛城山)は、美しい体色ではあるものの、取り立てて珍しい種ではありません。6月の蕎原のウラナミアカシジミも近隣市町では記録があるもので、やっと市内で見つけた

か！という感じでした（本誌 84 号）。

本誌で報告してこなかったものは、変形菌のヘビヌカホコリ（2 月、千石荘）や、ミンミンゼミ（8 月、蕎原）などわずかです。変形菌に興味がある人は僅かでしょう。それと、なぜ今ごろミンミンゼミなのでしょう？ ミンミンゼミは山の方では鳴き声はよく聞くものの、木の高い所で鳴いているため、これまで写真を撮ることが出来ませんでした。ようやく目の高さで鳴いているオス成虫を写真に収めることが出来ました（図 3）。



図 3. ミンミンゼミ（蕎原）

標本展示としては、脇浜住宅地跡で採集された約 80 年前の貝殻標本（図 4、西出康介さん採集・寄贈・標本作製）、大阪府立佐野高校生物資料室からの寄贈品、汽水ワンド（近木川河口干潟再生地）の水生物標本、2017 年に市内で採集された昆虫標本、「トンボの池」で採集されたトンボの羽化殻、2016 年の出来事展で展示できなかった西村恒一氏寄贈チョウ類標本の一部などを展示しました。



図 4. 脇浜の住宅跡地で採集された貝殻標本

大型モニターを使った展示は前回まで、パワーポイントのスライドショー（画像集）を映していましたが、今回は、2017 年に市内や館内で撮影された生きもの動画（画像集を含む）12 本を映しました。いずれも youtube 上にアップした「貝塚市の自然」という再生リスト内の動画で、その再生リスト内には 2017 年以外の動画もアップしています。いずれかの機会にでもご覧いただけたら幸いです。館には公式チャンネルがないので、研究員名でアップしています。今は亡き赤いヒキガエルの餌やりシーン（図 5）や、ふ化直後のマダコの幼生も「再生」しています。

ヒキガエル（2006年から約10年間飼育）

当時、ハナムグリの幼虫を餌として与えていました。この日は、居た場所が高く、なかなか右前脚が地面に届きません。少し可笑しい捕食シーンになりました。

赤色：貝塚市大川産
灰色：貝塚市馬場産

youtube再生リスト「貝塚市の自然」からも、ご覧いただけます。




YouTube

(27秒の動画です)

図 5. ヒキガエルの館内 QR コード

図5が館内の両生類コーナーの壁に掲示しているものです。その他、近木川水槽にはアユが泳ぐ姿の動画、チャイロマルハタやアオダイショウの水槽には餌やりシーンの動画など、いろいろなQRコードを掲示しています。こちらも宜しければご利用ください。なるべく1分以内に編集しています。ただし、館内はWiFi環境になく、また自分のようにデータ容量が少ない契約をしている方はご注意ください。

最後になりましたが、特別展の会場準備や展示デコレーションに協力していただいた西出康介さんに謝意を表します。

(岩崎 拓)



図1. ナキイナゴ
(バッタ目バッタ科、2017.7.6)



図2. ミヤマアカネ
(トンボ目トンボ科、2017.8.3)

調査速報

和泉葛城山昆虫調査 2017

2017年も和泉葛城山の山頂付近において4月から12月までの各月に1回ずつルートを決めて3時間程度の昆虫調査を行いました。その結果、および2008年以降の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ(図1)、準絶滅危惧のオツネトンボ、ミヤマアカネ(図2)、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミ、ミスジチョウ、クロマルハナバチを確認しました。

ナキイナゴは2008年以降、ヒトコブササキリモドキは2009年以降、毎年確認しています。オツネトンボの記録は5年ぶりでした。一度の調査(10月5日)で3個体確認したことは、これまで記憶にありません。ミヤマアカネは3年連続で8月に確認しているのに対して、アキアカネは2011年以降、まったく確認できていません。ハルゼミは5月から7月まで、エゾゼミは8月から10月まで、入れ替わるように鳴き声を聞きました。両種とも2008年以降、毎年確認しています。

2. 注目種

山地性で貝塚市内での分布が山頂付近

にはほぼ限られるものを中心にリストアップしています。

2016 年はサシガメ科+カメムシ科の注目種 8 種のうち 2 種しか確認できなかったのですが、今回は 3 年ぶりのエゾアオカメムシ (図 3) の記録を含めて、6 種を確認できました。



図 3. エゾアオカメムシ
(カメムシ目カメムシ科、2017. 11. 2)

スズメバチ科の 2 種、シダクロスズメバチとキオビホオナガスズメバチは両種とも確認し、特にキオビホオナガの方は 4 年ぶりの記録となりました。

3. 標本がなかった種

自然遊学館に標本がなく今回初めて確認された種を文末のリストに示しました。ヤナギコブオオアブラムシは山頂でよく見かけるムネアカオオアリがそのコロニーを作ろうとしているところでした。オオアカバハネカクシは体長 2 cm 弱で、ハネカクシ科の中では大型と言っていいでしょう。写真はドロハマキチョッキリの交尾を選んでみました (図 4)。



図 4. ドロハマキチョッキリ
(コウチュウ目オトシブミ科、2017. 4. 25)

4. その他

チョウ類は成虫 24 種、幼虫 1 種、計 25 種を確認しました。幼虫の確認はジャコウアゲハで (食草はウマノスズクサ)、2014 年まで確認なしだったのに、2015 年から 3 年連続の確認となっています。



図 5. ジャコウアゲハの幼虫
(チョウ目アゲハチョウ科、2017. 9. 19)

久しぶりに見たと感慨深かったのは、モイワウスバカゲロウです (図 6)。自然遊学館には、開館準備中の 1993 年 8 月の標本しかなかったからです。



図6. モイワウスバカゲロウ
(アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科、2017. 8. 3)

最後に、紹介した種の確認日（2017年の月/日）を示しました。日付の後の「*」印は幼虫での確認を示し、無印は成虫での確認です。

大阪府レッドリスト種

- ナキイナゴ 6/1、7/6、8/3
- オツネトンボ 10/5
- ミヤマアカネ 8/3
- ヒトコブササキリモドキ 7/6*、10/5
- ハルゼミ 5/11、6/1、7/6
- エゾゼミ 8/3、9/19、10/5
- ミスジチョウ 6/1
- クロマルハナバチ 10/5

注目種

- ホソクビツユムシ 4/25*、5/11*
- ニホントビナナフシ 9/19*、10/5
- エゾハサミムシ 8/3
- オオトビサシガメ 9/19、10/5、11/2
- ツノアオカメムシ 8/3
- エゾアオカメムシ 11/2
- トゲカメムシ 6/1*、9/19
- ツマジロカメムシ 9/19、10/5、11/2
- トホシカメムシ 6/1、9/19*、11/2

- アサギマダラ 9/19、10/5
- シダクロスズメバチ 5/11、11/2
- キオビホオナガスズメバチ 7/6

標本がなかった種

- ヤナギコブオオアブラムシ 10/5
- ツヤカスミカメダマシ 6/1
- マツヒラタナガカメムシ 5/11
- オオアカバハネカクシ 6/1
- スソアカベニボタル 7/6
- オオニジゴミムシダマシ 5/11
- ゴマダラモモブトカミキリ 7/6
- ドロハマキチョッキリ 4/25
- クロハネシロヒゲナガ 5/11
- マエグロシラオビアカガネヨトウ 6/1

参考文献

- 『大阪府レッドリスト2014』（大阪府、2014）
- 長田庸平（2017）和泉葛城山山頂付近でジャコウアゲハを記録. 南大阪の昆虫（19）：67.（2017年8月14日、1♂を記録）

（岩崎 拓）

貝塚市二色の浜と

近木川周辺の鳥調査 8

今年の1月はホシハジロが多かったのですが、2月と3月は去年より減少していました。原因は、左岸側から右岸側をふさぐ感じに河口の地形が変わったことで、ホシハジロの環境に合いにくい場所になったと思いました。



近木川河口の地形
(右岸側からの撮影)

今回は、1月～3月の鳥調査の報告です。調査のたびに 20 枚程度は使用に耐える写真が撮れるのですが、二色の浜公園の方では、オカヨシガモの写真を選んでみました。



オカヨシガモ
(二色の浜公園 2018 年 1 月 24 日)

二色の浜公園周辺において2018年1月～3月に観察された鳥類				1月	2月	3月		
				24日	21日	21日		
				13:25	13:20	13:25		
目	科	種		鈴子	鈴子	鈴子		
カモ目	カモ科	オカヨシガモ		○	○	○		
		ヒドリガモ		○	○	○		
		カルガモ		○	○	○		
		ハシビロガモ			○			
		オナガガモ		○	○	○		
		コガモ				○		
カイツブリ目	カイツブリ科	ホシハジロ		○	○	○		
		カイツブリ			○	○		
ハト目	ハト科	カンムリカイツブリ				○		
		キジバト		○	○	○		
カツオドリ目	ウ科	ドバト		○	○	○		
		カワウ		○	○	○		
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○	○		
		ダイサギ		○	○	○		
		コサギ				○		
チドリ目	チドリ科	ケリ			○	○		
		シロチドリ		○	○	○		
	シギ科	イソシギ				○		
		ハマシギ			○	○		
	カモメ科	ウミネコ		○	○	○		
		カモメ			○	○		
セグロカモメ		○		○				
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ		○		○		
	タカ科	トビ				○		
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ			○	○		
スズメ目	モズ科	モズ			○	○		
		カラス科	ハシボソガラス		○	○	○	
			ハシブトガラス				○	
		ヒバリ科	ヒバリ		○	○	○	
		ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	○	○	
		メジロ科	メジロ		○			
		ムクドリ科	ムクドリ		○	○	○	
		ヒタキ科	トラツグミ				○	
	シロハラ					○	○	
	ツグミ			○	○			
			イソヒヨドリ				○	○
		スズメ科	スズメ		○	○	○	
		セキレイ科	ハクセキレイ		○	○	○	
		アトリ科	カワラヒワ				○	○
	種数				22	28	33	

次に近木川河口周辺の調査の方は、イカルチドリの写真です。



イカルチドリ
(近木川河口 2018 年 2 月 7 日)

近木川河口周辺において2018年1月～3月に観察された鳥類						
目	科	種	1月	2月	3月	
			10日	8日	7日	
			13:20	13:40	13:20	
			鈴子	鈴子	鈴子	
カモ目	カモ科	オカヨシガモ		○		
		ヒドリガモ	○	○	○	
		カルガモ	○	○	○	
		オナガガモ	○	○	○	
		コガモ	○	○	○	
		ホシハジロ	○		○	
		スズガモ	○			
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ		○	○	
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	
		ドバト	○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○	
		ダイサギ	○	○	○	
		コサギ	○	○	○	
ツル目	クイナ科	オオバン	○	○	○	
	チドリ科	ケリ		○	○	
		イカルチドリ			○	
		シロチドリ			○	
チドリ目	シギ科	イソシギ		○	○	
		ハマシギ		○	○	
		ユリカモメ	○		○	
	カモメ科	ウミネコ	○			
		セグロカモメ	○		○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○			
	タカ科	トビ	○	○		
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		○		
スズメ目	モズ科	モズ		○	○	
		カラス科	ハシボソガラス	○	○	○
			ハシブトガラス			○
	ヒバリ科	ヒバリ			○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	
	メジロ科	メジロ	○	○	○	
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	
	ヒタキ科	シロハラ			○	
		ツグミ			○	
		ジョウビタキ	○	○	○	
		イソヒヨドリ	○	○	○	
		スズメ科	スズメ	○	○	○
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	
		セグロセキレイ			○	
	アトリ科	カワラヒワ			○	
カシラダカ				○		
ホオジロ科	アオジ	○	○	○		
種数			26	35	33	

(鈴子 勝也)

寄贈標本

<菌類>

◆久保元嗣さんより

ガヤドリナガミツブタケ 1点

貝塚市木積 2018年1月13日採集



ガヤドリナガミツブタケ

<鳥類>

◆牧野徹さんより

キジバト 死体1点

貝塚市石才 2017年12月22日採集

<爬虫類>

◆常道武士さんより

イシガメ 生体1点

貝塚市橋本 2018年3月15日採集

<魚類>

◆常道武士さんより

モツゴ 生体1点

貝塚市堤 2018年3月21日採集

◆川口博さんより

クサフグ 打ち上げ死体1点

貝塚市二色の浜 2018年3月23日採集



頭にコブのできたクサフグ打ち上げ死体

<軟体動物>

- ◆梅本健琉・大古場正さんより
オグラヌマガイ 殻1点
大阪市東淀川区 2018年2月14日採集
- ◆西出康介さんより
ナメクジ 生体3点+卵塊1点
貝塚市脇浜 2018年3月19日採集

<棘皮動物>

- ◆川口博さんより
アカクラゲ 打ち上げ死体1点
貝塚市二色の浜 2018年2月9日採集
アカクラゲ 打ち上げ死体1点
貝塚市二色の浜 2018年3月23日採集

<甲殻類>

- ◆金澤大空、柏村泰斗、中田てつやさんより
モクズガニ 生体2点
アシハラガニ 生体1点
貝塚市近木川河口
2018年3月17日採集

<昆虫>

- ◆西出康介さんより
マエアカスカシノメイガ 成虫1点
貝塚市脇浜 2018年3月5日採集

<寄贈写真>

- ◆覚野良子さんより
ミヤマホオジロ 1枚
アオゲラ 2枚、ほか3枚
和泉葛城山 2017年11月25日撮影
ビンズイ 1枚、ほか4枚
貝塚市蕎原 2018年1月14日撮影

- ヒレンジャク 5枚、ほか2枚
和泉葛城山 2018年1月14日撮影
カワセミ 2枚
イカルチドリ 1枚、ほか8枚
貝塚市近木川河口 2018年2月3日撮影
カヤクグリ 8枚
ウソ 5枚、ほか3枚
貝塚市蕎原～和泉葛城山
2018年2月4日撮影
ホタルカズラ 2枚
トラツグミ 4枚
アトリ 2枚
(ほか 岸和田市のものも含めて8枚)
貝塚市馬場 2018年2月11日撮影



トラツグミ
(貝塚市馬場 2018年2月11日撮影)

- ユリワサビ(蕾) 1枚
ヨゴレネコノメ(蕾) 1枚
ミヤマハハソ(冬芽) 1枚
トウゴクサバノオと
コガネネコノメソウ 1枚
イズミカンアオイ 1枚
バイカウツギ(芽) 3枚
マヒワ 1枚
カケス 1枚、ほか12枚
和泉葛城山 2018年3月4日撮影

ユキワリイチゲ 4枚
コブハサミムシ 3枚
貝塚市蕎原 2018年3月4日撮影



コブハサミムシ ♂ ルイス型
(貝塚市蕎原 2018年3月4日撮影)

ユキワリイチゲ 7枚
カテンソウ 1枚
ツルカノコソウ 1枚
フデリンドウ 3枚
ヨゴレネコノメソウ 1枚
アケボノシュスラン 1枚
カワガラス 4枚
ほか9枚
貝塚市蕎原～和泉葛城山
2018年3月11日撮影



フデリンドウの蕾
(和泉葛城山 2018年3月11日撮影)

レンゲツツジ (芽) 1枚

ユリワサビ 3枚
クワガタソウ (芽生え) 2枚
バイカウツギ 1枚
トウゴクサバノオ 1枚
ヒメクロモジ 1枚
アブラチャン 2枚
ニワトコ 1枚
シハイスミレ 1枚
和泉葛城山 2018年3月24日撮影
ほか他所も含めて16枚

＜これまで何か判定できなかった
寄贈標本＞

- ◆山口征一郎さんより
メボソムシクイ 死体1点
貝塚市近木 2014年10月7日採集
(同定：西澤真樹子)
- ◆米良遥佑・吹田直柔・岡本純弥・
福富勇樹さんより
カメ類の骨盤 2点
スペアリブ (豚の肋骨) 1点
貝塚市二色 2015年4月27日採集
(同定：西澤真樹子)
- ◆匿名希望さんより
植物の枯れた茎 1点
貝塚人工島 2016年11月3日採集
(同定：西澤真樹子)

＜目撃・観察情報＞

- ◆川口博さんより
クロナガアリ 働きアリと巣穴数点
貝塚市二色の浜 2018年2月10日
- ◆食野俊男さんより
ツバメ 2羽
貝塚市近木 2018年3月25日撮影

スタッフ日誌

2月1日、「ノリすき行事で参加者が作ったノリが乾燥して出来上がった」と名倉水産から連絡を受け、受け取りに行ってきました。その翌日には出来上がりを楽しみにしていた参加者の方々が、続々と館へ取りに来られました。(山)

2月24日、「ほっといたらあかんやん！第14回大阪湾フォーラム」が岬町にある海洋センターで行われ、行ってきました。今回は海藻をテーマに多くの発表が行われました。海藻おしば協会会長の野田三千代さんと十数年ぶりにお会いでき、お変わりない姿に元気ももらいました。(山)

3月24日、汽水ワンドのフェンスに、これまでの調査で観察した生きものを紹介するパネルを展示しました。汽水ワンドの横を歩く多くの人たちから、「ここにはいったいどんな生きものが棲んでるの？」との声が寄せられていましたが、このパネルを通して皆さんに知ってもらえたらと思います。(山)



3月29日、泉州地域にある高校の生物部から昆虫標本の寄贈を受けました(標本箱9箱分、280点)。採集年は1950年代から1980年代までで、産地は泉州が大半でしたが、沖縄や台湾など遠方のもも含まれていました。ただ、防虫剤は(かなり以前から)切れ、ほとんどの標本がカツオブシムシ等の食害を受けていました。見た目は「残っている」かのように見えたわずかな標本も、体部がなくボロボロと崩れていきます。結局、29点しか救い出せませんでした。その他、標本なしで同定ラベルだけが残っていたものは、参考として、データだけを記録に留めました。(岩)

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2018 春号 (No. 87)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2018. 5. 10

この小冊子は庁内印刷で作成しています。